

穂 学

令和 2 年度

広州日本人学校 学校便り

[No. 13]

令和 2 年 9 月 25 日 (金)

発行責任者 校長 喜屋武浩司

「さらなるICT教育環境の構築を目指して！」

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、長期間の休校措置や遠隔での学習支援の工夫が求められています。本校では休校期間中に、学習支援アプリ「ロイロノート」を活用した課題の配信、添削や返信などを行ってきました。また、授業再開後は、タブレットやロイロノートアプリを中心とした ICT 機器を活用することにより、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを校内研究の一環として取り組んでいます。

このような中、文部科学省が令和 2 年度第二次補正予算 5 億円を投じて事業提案した「日本人学校教育環境整備事業」が始まりました。この事業の目的は、新型コロナウイルス感染症の世界的な影響により在外教育施設に生じた様々な課題に対応し、児童生徒の学びの保障を図り、非常時でも途切れない教育体制を確立することをねらいとしています。

本校はこの文部科学省整備事業に応募し、下記の内容が正式に採択されました。

- ①タブレット (iPad) 90 台の購入
- ②全ての教室に無線 Wi-Fi ルーターを設置及びタブレット周辺機器の整備
(今後半年間の本校 ICT 教育実践研究をまとめて報告することになります)
(本校には ICT 教育アドバイザーが配置され研究に対する助言を受けます)

上記①②については、購入及び設置工事に少し時間を要しますが、今後も現有のタブレット (30 台) を活用した ICT 教育の実践研究を重ねていきます。

また、総合的な学習の時間を活用した、東風東路小学校との交流 (小学部) や深圳日本人学校との交流 (中学部) では、タブレットを用いてオンラインでの交流を計画しております。

ICT 機器を活用することにより、タブレットやコンピュータの情報端末を使用することで、瞬時に時間や空間を超えて多様な情報を収集し、思考力の向上を図ることができます。多種多様な情報を整理し、分析し、自分の考えを導き出すことは、子どもたちの学びの裾野を広げることにつながります。

子どもたちのタブレット活用にかかる習得の早さには驚かされます。引き続き、本校の ICT 教育実践にご理解とご意見をいただけると幸いです。

